



## 欧州委員会

ブリュッセル，2022年2月2日  
COM(2022) 31 最終

欧州議会，理事会，欧州経済社会委員会及び地域委員会に向けた委員会からの通達

### EU 標準化戦略

柔軟かつグリーンでデジタルな EU 単一市場を支援するグローバル規格の策定

## EU 標準化戦略

### 柔軟かつグリーンでデジタルな EU 単一市場を支援するグローバル規格の策定

#### I. 序文—EU の価値、政策目標及び規制実施を促進するための規格

規格は EU 単一市場の中核にある。過去 30 年間にわたり、欧州標準化システムは 3600 を超える整合規格を提供して、企業が EU 法の順守を実証できるようにし、それに加えて相互運用性、EU 市民の安全及び環境の保護を促進するためにさらに多くの欧州規格や技術仕様書を提供してきた。欧州規格は企業や消費者に多大な利益をもたらし、企業に対して単一市場における公平な競争の場を創出し、消費者の信頼を高めてきた。

欧州の標準化は、競争の高まりが激しいグローバルな状況の中で行われている。第三国の多くは標準化に積極的な姿勢をとっており、自らの産業界に市場アクセスと技術展開の面で競争力を与えている。

欧州の競争力、技術的主権、依存度を減らす能力、そして社会的・環境的野心を含む EU の価値を守ることは、欧州の関係当事者が国際レベルでの標準化においてどれだけ成功するかがカギになっている。このことは、産業界や学界における強力な標準化スキルに関係するだけでなく、欧州の標準化がより迅速かつ柔軟なものになって、標準化のニーズを予測することに焦点を当てることが求められる。

同時に、欧州の標準化は急速化の激しいイノベーションのペースに対応しなければならず、質の高いアウトプットを維持しつつ、規格を迅速に提供する必要がある。多くの場合、民間や欧州以外の産業界が主導している他のコンソーシアムは、規格の作成においてより身軽かつ迅速である。特に新興技術では、欧州の標準化システムがタイムリーに対処し損なうことも多く、そのために標準化を通じての重要な‘先駆者’としての有利さを失っている。

欧州の標準化は EU 単一市場の確立のためのサクセスストーリーであったが、規格策定において EU のリーダーシップが発揮されることなく、規格の戦略的重要性は十分に認識されていなかった。これは変えなければならない。この戦略は、ロードマップ<sup>1</sup>で受け取ったフィードバックを考慮に入れて、柔軟かつグリーンでデジタルな EU 単一市場の中核に規格を呼び戻し、欧州標準化システムのグローバルな役割を強化するために、一連の行動を提案するものである。

#### II. 欧州標準化システムへのでこ入れ—グリーンでデジタルな二つの移行を実現し、単一市場の柔軟性を支援する

EU 産業のデジタルでグリーンな移行、そして十分に機能する柔軟な単一市場は、EU 政策の優先順位を十分に反映した標準化システムに頼ることになる。気候の面で中立的で、柔軟性があり循環的な経済に向けた EU の野心は、試験方法や管理システム又は相互運用性のソリューションに関する欧州規格なしには達成できない。デジタルリーダーシップに関するグローバルな競争では、デジタル製品、プロセス、そしてサービスに関する国際規格をグローバルベンチマークとして形成する能力は EU の競争力みとって不可欠のものである。要するに、関連規格が世界の他の地域によって規定されている場合は、柔軟かつグリーンでデジタルな経済に関する EU の政策の野心は不十分になるであろう。

したがって、産業エコシステム全体において進行している標準化作業に加え、欧州連合は今日、重要な‘標準化の緊急性’に直面しており、それは戦略的依存性を避け、グリーン及びデジタル技術における EU のグローバル

---

<sup>1</sup> [https://ec.europa.eu/info/law/better-regulation/have-your-say/initiatives/13099-Standardisation-strategy/feedback\\_en?p\\_id=25976796](https://ec.europa.eu/info/law/better-regulation/have-your-say/initiatives/13099-Standardisation-strategy/feedback_en?p_id=25976796)

なリーダーシップを明示するために、今後数年間において規格が必要とされる分野である。更新されていく産業戦略<sup>2</sup>における戦略的依存性の分析、及び産業同盟を通じたステークホルダーのインプットから、次の戦略分野における規格作成の緊急ニーズが特定された。すなわち、COVID-19 ワクチン及び医薬品の製造における現在の障害を克服するための規格、重要な原材料(CRM)のリサイクルを支援するための規格、クリーンな水素バリューチェーンの展開を支援するための規格、大幅な排出削減の可能性を踏まえて低炭素セメントを支援する規格、セキュリティ、真正性及び信頼性の観点からのチップの認証のための規格、並びに欧州共通データスペース(Common European Data Spaces)を支援するデータの相互運用性、データ共有及びデータの再利用を強化するデータ規格である。

これらの標準化の緊急性に対処し、将来の緊急性及びニーズをより適切に特定し、予測するために、委員会は一連の対策を提案する。

第一に、委員会は、標準化に関する 2022 年の年次欧州連合作業プログラムに反映されているように、上記の標準化の緊急性に対して直ちに対処する。委員会は標準化の要請を開始し、それぞれのステークホルダーのコミュニティとタイムリーに交流し、資金調達によっても作業をバックアップする。委員会は、欧州標準化組織(ESO)にこの作業を遅滞なく行うことを優先するように求める。

第二に、新しいハイレベルフォーラムで優先順位の設定を支援し、将来の標準化ニーズに関して助言を行い、(国際)標準化フォーラムにおける欧州の利益の実効的表明を調整し、EU 経済をよりグリーンでデジタルで公平かつ柔軟性のあるものにするためのニーズを欧州標準化の活動が確実に満たすように、加盟国と欧州標準化組織、それに各国の標準化団体、産業界、市民社会<sup>3</sup>、並びに学界の代表者を一堂に会させる。さらにこのフォーラムでは、規格における技術的な専門知識とスキルを強化する作業を行う。専門のサブグループが運用レベルで作業を推進する。このハイレベルフォーラムは、産業フォーラム、データイノベーション部会、産業同盟、及びセキュリティ研究に関する欧州フォーラム<sup>4</sup>のような既存の専門家グループと緊密に連携して作業する。これにより、標準化コミュニティはより迅速に、イノベーターとユーザーのニーズに合わせてよりよく対応できるようになる。EU の標準化の優先順位に関する議論への欧州議会及び理事会の関与は、政治的協調を確保するための鍵であり、毎年のハイレベルなイベントによって促進される。

第三に、委員会はハイレベルフォーラムと共に、新しい規格の改訂又は作成のニーズを明確化して欧州グリーンディール及び欧州のデジタルディケイドの目標を達成し、単一市場の柔軟性を支援するために、既存の規格をレビューするプロセスを開始する。

第四に、委員会は技術レベルに関して、委員会、EU 機関及び共同事業内に散在している既存の標準化の専門知識をより良く調整し活用するために、規格に関する EU エクセレンスハブを確立する。このハブは、加盟国と緊密に協力して、将来の標準化ニーズの予測に取り組み、優先的な標準化分野における作業を支援し、国際的な標準化活動を監視する。このハブにより、eID、eGovernment、ブロックチェーンサービスインフラストラクチャなどの分野での指針及び仕様の作成に関する公共部門の要請により良く対応できるようになる。委員会はチェーン標準化責任者の機能を作ることで、エクセレンスハブの作業を指揮し、委員会全体にわたるさまざまな標準化活動の全体的な監視及び調整を確実に行う。

---

<sup>2</sup> COM(2021) 350 最終

<sup>3</sup> 消費者団体並びに環境及び社会的ステークホルダーを含む。

<sup>4</sup> このフォーラムは、セキュリティ研究の取り込みに対する主な障壁をどのように取り除くかについて、国の当局が見解及び経験を交換することを可能にし、EU におけるセキュリティ研究に関する政策立案への一貫した戦略的アプローチを支援することを目的としている。

第五に、委員会は ESO と協力してソリューションに取り組み、EU 法の実施を支える規格の作成の各ステップを加速するための明確な目標を設定する。これは、あらゆる側面からの取り組みの強化を必要とする。これは新たに作成される規格と EU 法との一貫性を改善して、それらのタイムリーな採用を促進することを含んでいる。さらに ESO は、整合規格の採用からそれを正式に委員会に送付する<sup>5</sup>までの時間を短縮する必要がある。送付から、*欧州連合官報*における引用の発表までの時間は 2020 年と 2021 年に短縮され、委員会は規格が EU 法の要求事項を満たしているかどうかを検証する自らの責任を果たしつつ、規格のより迅速な発表にも取り組み続ける。

ビジネスサービスに関しては、過去の進歩は比較的ゆっくりであり、サービス規格はまだ全ての欧州規格の 2% にすぎない。委員会は、整合規格が競争力を向上させ、市場の障壁を減らすことができるような最も適切な分野のアセスメントを、高度な製造及び建設に関するサービス規格を含めて推進してきた。委員会は、ビジネスサービスに関するこの作業を前進させるためにステークホルダーと協力している。

革新的でグリーンかつデジタルな製品の規格の受容を促進するためのツールとしての公共調達、委員会はステークホルダーと共に評価を行うもう一つの分野である。

#### 委員会は次のことを行う。

- COVID-19 ワクチン及び医薬品の製造、重要な原材料のリサイクル、クリーンな水素バリューチェーン、低炭素セメント、チップ認証並びにデータ規格に関して、特定された標準化の緊急性に直ちに対処するために、ESO、ステークホルダー及びその他のパートナーと協力する。
- 今後の標準化の優先順位を予測する際に委員会を支援し、欧州議会及び理事会と協力してこれらの優先事項に関する政治的協調を確実に行うために、ハイレベルフォーラムを設立する。
- 2022 年以降の標準化に関する年次欧州連合作業プログラムに、標準化の優先順位を反映させる。
- 新しい規格の改訂又は作成のニーズを明確化して欧州グリーンディール及び欧州のデジタルディケイドの目標を達成し、EU 単一市場の柔軟性を支援するために、既存の規格をレビューする。
- 標準化の専門知識を結集するために標準化に関する EU エクセレンスハブを設立し、このネットワークを指揮して、標準化活動と EU の政策目標及び戦略的利益との一致に関する委員会の監視を確実に行う、チーフ標準化責任者を指名する。
- 規格の作成及び採用を加速するための具体的なソリューション及び目標に関して ESO と協力し、*欧州連合官報*での引用による発表のために、提案される規格の一貫性を高める具体的なソリューションを実施する。

### III. 欧州の標準化システムの整合性、包括性及びアクセシビリティの維持—優れた統治原則の適所への導入

欧州標準化システム内では、欧州標準化組織(ESO)、欧州標準化委員会(CEN)、欧州電気標準化委員会 CENELEC)、及び欧州電気通信標準化機構(ETSI)が、特権的で卓越した役割を果たしている。これらの組織のみが、委員会から出される標準化の要請に取り組む資格をもっている。この役割は、欧州の標準化に関する規制(EU) No.

<sup>5</sup> 欧州の標準化に関する 2012 年 10 月 25 日の欧州議会及び理事会の規制(EU) No 1025/2012 の実施に関する欧州議会及び理事会への委員会からの報告、SWD (2022) xxx

1025/2012 の第 10 条に従って規格及び標準化の成果物を作成するために、私法によって統治されるこれらの組織に対して要請する EU 立法者の選択に由来している。

欧州の標準化組織の特別な地位には責任が伴う。規格は、これまで以上に技術的要素を扱う必要があるだけでなく、EU の中核である民主主義の価値及び利益、並びにグリーン及び社会的原則も含んでいる。例えば、サイバーセキュリティの規格又は重要なインフラストラクチャの柔軟性は、戦略的な次元をもっている。これは特に、EU の整合法規に基づいて採用され、その引用が *欧州連合官報* において発表され、それを司法裁判所がこれらの規格の解釈の目的のために EU 法の一部と見なしている<sup>6</sup> 整合規格に関して重要である。この点で欧州の標準化システムを確実に機能させるために、それが EU の利益及び価値を確実に促進するような対策を講じることが望ましい。

委員会は、特に ETSI における欧州の標準化組織内の現在の意思決定プロセスが、特定の企業利益への不公平な投票権を許容することを懸念している。一部の多国籍企業は、ステークホルダーコミュニティ全体を代表する団体よりも多くの票を獲得している。これが、欧州の標準化組織が欧州の標準化の要請に基づいて行動し、EU 市民の利益のために課せられる規則の順守を示すために使用される規格を作成する際に、管理及び優れた統治の原則を適所に導入する必要があると委員会が考える理由である。

そのため、委員会は本日、規制(EU) No 1025/2012 を修正する規制を提案する。これは、委員会からの標準化要請に関して有資格であるには、EU 及び EEA の国の標準化機関の代表者が、委員会が要請する規格の作成の各段階において意思決定権を持つ者でなければならないことを規定している。国の標準化機関の社会的ステークホルダーを含むバランスの取れた代表を通じて、このことはプロセスの開放性、透明性及び包括性を高めるものとなる。

中小企業はイノベーションの重要な推進力であり、規格のユーザーである。しかしながら、規格作成プロセス及び規格に対する彼らのアクセスを改善する必要がある。規制(EU) No 1025/2012 の第 6 条は、より中小企業に親しみやすい条件(規格原案への無料アクセス、国の標準化機関の活動へのアクセス、規格に対する特別料金の適用など)を展望している。

これを念頭に置いて、規制(EU) No 1025/2012 の修正を補完するために、委員会は ESO に対し、自らの統治を現代化するための提案を 2022 年末までに行うように要請する。これには、産業利益の不公平かつ不透明な代弁に対処し、中小企業、市民社会及びユーザーの関与を増すことを含むことが望ましい。ESO は、規格及びその他の成果物に対する無料アクセスも考慮することが望ましい。委員会は、ESO がこの目的を達成することを支援するため、既存のフォーラムを利用して建設的な対話で ESO に関与する用意がある。進展が不十分な場合、委員会は必要に応じて規制(EU) No 1025/2012 の改訂を提案することを考慮する。委員会は、2022 年の第 2 四半期に規制(EU) No 1025/2012 の評価を開始する。

標準化の開発及び規格自体へのアクセスを改善するために、国レベルでさらに多くのことが行える。そのため、委員会は EU 加盟国と国の標準化機関との間でピアレビュープロセスを開始し、優れた実施法について意見交換し、中小企業に親しみやすい条件並びに欧州連合全体にわたる市民社会及びユーザーの関与をどのように促進するかに関して、新しいアイデアを奨励する。さらに、委員会はより広範な中小企業の人々に接触し、訓練、説明会及び案内資料を用意するために、企業欧州ネットワーク(EEN)を含む既存のネットワークを活用する。

---

<sup>6</sup> 2016 年 10 月 27 日の法廷判決, C-613/14, ECLI:EU:C:2016:821。

最近の法律<sup>7</sup>及び委員会の提案<sup>8</sup>は、特定の事例において施行法を通じて技術仕様又は共通仕様を採用することを、委員会の権限として与えている。EUの整合法規における整合規格の役割を踏まえて、この選択肢は、整合規格がないか不十分な場合に公益が確実に提供されるように、代替的なソリューションとして組み込まれている。部門別のアプローチが断片化することを避けるため、委員会はこれが関連法律で規定されている場合、施行法を通じて共通仕様を作成する権限をいつ、どのような条件で委員会に付与し得るかに関して、判断基準及びプロセスの点で水平的アプローチに取り組む。これは例えば、ステークホルダー間のコンセンサスがなかったために規格が遅れている場合やプロセスがブロックされている場合である。この戦略で発表される新たに作られるEUエクセレンスハブは、これらの共通仕様を作成するために必要な技術的専門知識を提供する。

#### 委員会は、

- 規則(EU) No 1025/2012を修正する立法案を提示し、その中で委員会は、規則(EU) No 1025/2012の第10条の下で欧州の標準化要請を取り扱う場合に順守しなければならない基本的な判断基準を提案する。
- 欧州の標準化組織に対して、自らの統治を現代化して公益並びに中小企業、市民社会及びユーザーの利益を十分に代表し、規格へのアクセスを容易にするための提案を2022年末までに行うことを要求する。
- 規則(EU) 1025/2012の評価を開始して、それが依然として目的に適合しているかどうかを評価する。
- 市民社会及びユーザーを含むより良い包括性、並びに標準化のための中小企業に親しみやすい条件を達成するために、2022年末までに加盟国及び国の標準化機関の間でピアレビュープロセスを開始する。
- 部門別の法律の下での施行法を通じて、技術仕様又は共通仕様を作成するための水平的アプローチを開発する。

#### IV. グローバルな規格策定：主要な技術の先導者としてのEUの主導的地位を支援し、EUの中核的価値を促進する

伝統的に、欧州連合は国際標準化活動において強いグローバルな立場を有し、国際規格を欧州規格に翻訳する上で優れた実績をもっている。現在、欧州の専門家及び国家標準化団体は依然として重要なプレーヤーであるが、地政学的な状況は近年かなり変化している。他の関係者は国際標準化に対してEUよりもはるかに積極的なアプローチを採用しており、国際標準化委員会において影響力をもっている。EUの目標は、自らの価値及び利益に沿って国際規格を形成することであるが、それを行う上で激しい競争にさらされている。<sup>9</sup>

EU及びその加盟国は、国際電気通信連合(ITU)、国際標準化機構(ISO)及び国際電気標準会議(IEC)だけでなく、その他の関連するグローバルなパートナーシップ、フォーラム及びコンソーシアム<sup>10</sup>においても、EUのグロ

<sup>7</sup> 肥料製品に関する規制(EU) 2019/1009、医療機器に関する規制(EU) 2017/745、生体外(インビトロ)診断医療機器に関する2017年4月5日の欧州議会及び理事会の規制(EU) 2017/746、公的機関のウェブサイト及びモバイルアプリケーションのアクセス可能性に関する2016年10月26日の欧州議会及び理事会の指令(EU) 2016/2102、並びにサイバーセキュリティ法の規制(EU) 2019/881。

<sup>8</sup> 人工知能(COM/2021/206)、バッテリー(COM/2020/798)、機械製品(COM(2021)202)、水素及びガス市場(COM(2021)804)。

<sup>9</sup> 委員会の戦略的展望報告(2021)の分析も参照のこと。

<sup>10</sup> 例：3GPP, OneM2M, IETF, IEEE, W3C, OASIS, ECMA International, UN/CEFACT。

ーバルな競争力、セキュリティ及びオープンな戦略的自律性、並びに EU の価値を促進する能力を確保するために、国際標準化活動に対するより戦略的なアプローチを推進しなければならない。

EU 加盟国、EU の標準化機関及び EU の産業界は、国際標準化プロセス、開放性、透明性及びコンセンサスなどの世界貿易機関(WTO)の原則を支援するために、資源を効果的に調整及び共有してはいない。これは、リチウム電池、顔認識又はデジタルツインのような注意を要する分野で、世界の他の地域が EU の価値、政策及び規制の枠組みとしばしば相容れない自らの技術的ソリューションを推進し、国際技術委員会を主導している状況をもたらしている。

グローバルな標準化において EU の声を強化するには、EU 加盟国、国の標準化機関、それに EU のステークホルダーとの間の調整を改善しなければならない。規格に関する EU エクセレンスハブは、関連する国際標準化活動を監視し、調整は、この戦略で発表されているようにハイレベルフォーラムを通じて政治レベルで促進される。

特に重大な状況は、無料、オープン、アクセシビリティ、包括的で安全なグローバルインターネットを促進するためのインターネット標準化に関連している。近年、インターネットプロトコルの国際標準化は、グローバルなオープンインターネットの進化を制限し、世界中のデジタル化プロセスを妨げるリスクを抱え、ますます政治的な事柄になっている。委員会は、この問題に積極的に対処する。志を同じくするパートナーと緊密に連携し、G7<sup>11</sup> 及び EU-US 技術貿易評議会(TTC)での作業とリンクして、関連する国際フォーラムにおいて欧州の存在感を高めるために作業する。この戦略で発表された、新たに設立される規格に関する EU エクセレンスハブは、この作業を支援する。委員会は、国際的に合意された主要なインターネット規格の展開を監視し、このデータ及び関連する最良実施法を EU のインターネット規格監視ウェブサイト上で利用できるようにする。委員会は、IPv6 などの主要なインターネット規格の展開を促進するために可能な政治的対策も提案する。<sup>12</sup>

エコデザイン及び今後の持続可能な製品イニシアチブの下での持続可能性の要求事項の導入には、欧州市場のための規格の作成が必要である。EU は、基盤にある政策目標をより広く国際的に追求し、先駆的産業の競争上の有利さを確保するために、これらの規格のグローバルな採用を促進するように取り組むべきである。

委員会は、宇宙での交通管理に関する国際標準化も監視し、宇宙空間の安全で持続可能な利用への自らの直接的な影響と、技術的主権に向けた EU の取り組みにおける宇宙技術の役割を踏まえて、EU のアプローチを発展させている。民間、防衛及び宇宙産業の間の相乗効果に関する EU の行動計画<sup>13</sup>の一環として、委員会は他の主要なステークホルダーと緊密に協力して、既存の民間/防衛混成規格の使用を促進し、国際レベルで新しい規格の作成においてリーダーシップを発揮するための計画を提示する。

委員会は EU 加盟国に対して、国際標準化活動への市民社会、中小企業の専門家、労働組合及び消費者代表の参加を支援することを奨励する。規格は製品の技術的側面を規制するだけでなく、人々、労働者及び環境に影響を及ぼす可能性があるため、包括的な複数ステークホルダーのアプローチは規格の作成に対して重要なチェック&バランスをもたらす可能性がある。

EU の社会的、環境的及び倫理的な価値は、志を同じくする多くのグローバルパートナーと共有されている。EU が締結した貿易協定では、貿易に対する技術的障壁及び優れた規制実施法に関する章が、特に貿易パートナーによる国際規格の採用を促進することによって、またそれぞれの標準化機関の間の協力を通じて、EU の標準化の目標を推進する上で既に役割を果たしている。しかし、主要なパートナーとの国際規格設定における利益

---

<sup>11</sup> G7 デジタル・技術大臣会議の閣僚宣言(2021年4月28日)

<sup>12</sup> JOIN(2020) 18

<sup>13</sup> COM(2021) 70 最終

共有を支援するために、貿易協定及びパートナーシップを活用する際には、より戦略的なアプローチの余地がある。貿易技術評議会(TTC)の範囲内でのいっそうの協力と協調行動に関して米国と進めている議論、あるいは日本や韓国、シンガポールと計画しているデジタルパートナーシップの規格に関する将来の議論は、国際的なパートナーとのEUの標準化の協力の好例である。

委員会は、中国など他の国々との対話を継続し、例えば欧州グリーンディールを支援するために、可能な協力分野を探求する。近隣諸国、並びにアフリカ又はラテンアメリカやカリブ海諸国など、他の重要なパートナー地域と欧州連合の経済関係を強化するには、これらの国々による欧州及び国際規格の採用、そして規格策定への彼らの参加を促進し、容易にする必要がある。この目的のために、委員会は、欧州標準化組織と第三国の標準化機関との間の既存のパートナーシップ及び協力プロジェクトの構築を含むイニシアチブを発展させる。委員会は、自らのインフラストラクチャ資金調達活動を通じてこれらの規格を推進するために、グローバルゲートウェイ戦略も活用する<sup>14</sup>。国際的研究及びイノベーション協力の役割は、グローバルな規格設定者としてのEUの主導的役割を促進するためにも同様に重要である。

#### 委員会は次のことを行う。

- 規格に関するEUエクセレンスハブの支援を受けて、国際標準化への欧州のアプローチ(ISO, IEC, ITU及びその他の関連する国際フォーラム)を監視、情報共有、調整、強化するための、EU加盟国及び国家標準化機関とのメカニズムを確立する。
- 無料で、オープンで、アクセシビリティのある安全なグローバルインターネットに関する国際規格の作成と展開を促進し、EUインターネット規格監視ウェブサイトを確立する。
- EU貿易協定の標準化に関する既存の取り決めの効果的な実施を監視し、そうした貿易協定、規制に関する対話及びデジタルパートナーシップを利用して、戦略分野で志を同じくするパートナーと標準化に関して協力し、国際標準化機関における立場を調整する。
- 国際標準化へのステークホルダー(中小企業、市民社会、学者)の参加の支援も視野に入れ、標準化及びEU規格に関して、近隣開発及び国際協力機関—グローバルヨーロッパ(NDICI-GE: Neighbourhood, Development and International Cooperation Instrument – Global Europe)及びホライズンヨーロッパとの国際協力を促進する。
- 開発協力政策及びグローバルゲートウェイの一環として、選ばれたアフリカ諸国の標準化プロジェクトに資金提供を行う。EUはEUの近隣から始めて、加盟の見通しがあるか、又はEU国内市場と緊密な統合性をもつパートナー国において、主要な欧州規格を推進する。

#### V. タイムリーな規格を促進する最先端イノベーション

EUの標準化のリーダーシップは、その産業エコシステムのイノベーション能力に依存している。EUの研究、開発及びイノベーション(R&D&I)プロジェクトは、新技術がより成熟した段階に入ることを可能にし、より大規模にそれらの適用性を支援し、その市場での受容を促進する。したがって、ホライズンヨーロッパ及びその前身のプログラムによるものを含む欧州のR&Iの基盤を、新しい規格に関連する研究を明確化及び伝達する際にはさらにいっそう活用する必要がある。

標準化のニーズを支援する上で、EUが資金提供する標準化前の研究には、未だ開拓されていない可能性が存在する。標準化前の研究への適切な資源配分は、欧州が国際標準化プロセスで確実に主導権を握る助けとなり得る。“規格への科学のいっそうの反映 (PSIS: Putting (more) Science into Standards)”イニシアチブにおける委員会の毎年の“標準化に関する展望”行動は、CEN及びGENELECと協力して将来の標準化の機会を早期に明確化し、研究、イノベーター及び標準化コミュニティの間に重要な架け橋を築くための重要な実践である。

<sup>14</sup> JOIN(2021) 30



ホライズンヨーロッパ及びユーラトム研究・訓練(Euratom R&T)プログラムは、共同事業及びデジタルヨーロッパプログラムなどの直接的な行動とパートナーシップ、それに ERA 共通の産業技術ロードマップを通じて、重要な役割を果たす。これらは標準化のニーズを予測し、戦略的な優先順位と標準化前の研究とを結び付ける。これが、EU が資金提供する R&D&I プロジェクトの評価及びレビュープロセスが、例えば主要業績評価指標及び報告義務の一部として、標準化のニーズをすでに考慮に入れている理由である。

委員会は、関連する標準化活動に参加するために EU が資金提供する R&D&I プロジェクトに参加する研究者及びイノベーターを、いかにより良く支援するかを評価する。委員会は、受益者(彼らのホライズン 2020 及びホライズンヨーロッパの研究結果は、規格の改訂又は作成にてこ入れする可能性が高い)を支援するプラットフォームである‘標準化ブースター’を、標準化に対する彼らの結果の妥当性を試験するために立ち上げる。規格作成の早い段階での研究及びイノベーションのコミュニティへの参加は、標準化の専門知識及びスキルを構築する機会も与える。現在、研究者、スピノフ(会社の一部門を独立させた子会社)及び新興企業は、しばしば標準化を優先事項と見なしてはいない。彼らは標準化の恩恵を必ずしも認識しておらず、必要な資源をもっていないか、又は標準化活動に費やす時間は十分に報いられないと考えている。標準化活動を促進し、研究者やイノベーターの戦略的認識を高めるための一貫したアプローチは、標準化に関する研究者に焦点を当てた欧州実施要領規範(European Code of Practice)によって促進される。

R&D&I に限らず、規格の成功活用は、欧州連合全体において主導的市場をどれだけ迅速に確立できるかに直接的に依存している。コネクテッドカー、インテリジェントファクトリー、デジタルヘルスケアシステムのような技術を早期に導入するための臨界となる量を達成することは、これらの分野における EU のリーダーシップを支える欧州の勢いを作り出す。その意味で、コネクティング・ヨーロッパ・ファシリティ(CEF)及びデジタルヨーロッパプログラム(DEP)のような、展開のためのプログラムは、欧州のグローバル規格を中心とした産業能力構築にとって重要であり、それらの役割を今後強化することが望ましい。

将来の規格は、テキストから機械が読める形式へと移行する必要がある、機械が読める形式はよりユーザーフレンドリーであって、特に中小企業にとってそうである。委員会はこの移行を支援する。さらに委員会は、欧州の標準化組織に対し、オープンソースソリューションを自らの活動に組み込むことを求め、これは技術ソリューションの受容の際に、中小企業に迅速な相互運用性ソリューションを提供することを可能にする。

#### 委員会は次のことを行う。

- ホライズン 2020 及びホライズンヨーロッパの下で、研究者が標準化に関する自らの結果の妥当性を試験することを支援するために、‘標準化ブースター’を立ち上げる。
- 標準化と、欧州研究領域(ERA)を通じた研究/イノベーションとの間の結び付きを強化するために、標準化に関する研究者のための実施要領規範を 2022 年半ばまでに作成する。

## VI. 将来の標準化の専門知識の確保—教育及びスキルの必要性

規格の使用は増しており、競争力及び公共財に関する標準化の重要性は議論の余地がないが、標準化に関する一般的な認識及び訓練は比較的少ない。標準化に関する正式な教育も職業訓練も存在しない。多くの EU 企業は、規模の大小を問わず、法令順守、市場アクセス又は一般的なビジネス戦略など、さまざまな経済運営に関する自らの関連性を把握した標準化に対する構造化された戦略的アプローチを欠いている。

これは懸念されることであり、それは、標準化の開発作業のために技術専門家を招請することの全体的な困難さに現れている。欧州の標準化システムの成功は、規格開発の全ての重要な側面を実効する産業、行政、市民社会、研究、あるいは学界からの多数の専門家に依拠している。欧州の標準化システムが成功してきたのは、主

に企業や大学、研究機関、それに行政の投資のおかげである。欧州は、グローバルな野心の追求を成功させ、デジタルでグリーンで柔軟な単一市場を支援するために、最良の標準化専門家を必要としている。

この問題は、今後の世代交代によって悪化する。過去数十年間に標準化に取り組んできた専門家の多くは引退することになる。同時に、標準化の状況はより複雑になる。人工知能、データ保護又はサイバーセキュリティのような新しい技術課題と水平的な考察は、規格の作成に新しいスキルを要求するようになる。標準化活動は、標準化の傾向と受容に関して情報提供する国内、欧州及び国際的な組織におけるイニシアチブと共に、異なるレベルに階層化されている。

教育においては、ビジネス、法律又は工学学位における専用の標準化モジュールの開発が、標準化の認識及び知識を広げる重要な推進力になる可能性がある。委員会は、学者と学生の間での認識のために、標準化に関する大学の日(Standardisation University Days)の組織を推進する。委員会の EU アカデミー<sup>15</sup>のような、標準化に積極的な学者の間でのプラットフォームは、教育モジュールを開発するための意見交換及び触発のフォーラムを提供することができる。

地域及びクラスター内でより多くの支援活動を行うことは、標準化の知識を促進し、職業と教育訓練(VET)を通じて、標準化の専門知識の発展を促進する効果的な手段となり得る。EU の資金提供プログラム内の標準化前の活動には、規格作成に寄与し得る重要な知識を研究者が得る可能性が存在している。これまでのところ、研究者の間にそうした専門知識の価値を高めるイニシアチブは存在しておらず、委員会は、科学技術協力(COST)行動の範囲内で規格に関する専用の研究ネットワークを探索することから始めることになる。

#### 委員会は次のことを行う。

- 学者と学生の間で標準化の認識を促進するために、標準化に関する大学の日を開催する。
- 標準化及び標準化前研究を通じて研究及びイノベーションの価値を高めるために、COST 協会を含む、ホライズンヨーロッパ及びユーラトム研究・訓練プログラムからの若手研究者及びネットワークのためのイニシアチブを展開する。
- 標準化 e ラーニング訓練資料の配布のために、委員会の EU アカデミープラットフォームを使用する。標準化に関する若い専門家を引き付け、訓練し、再度のスキル獲得の機会を促進するために、ハイレベルフォーラム内での標準化アカデミック教育モジュールの開発及び普及を促進する。

## VII. 今後の方向性－欧州の標準化システムの未来

規格はそれ自身が目的ではない。規格は、産業競争力、国内市場での商品とサービスの自由な移動、イノベーション、安全性、消費者、労働者及び環境保護、並びにオープンな戦略的自律性及び気候の面で中立的で柔軟性のある循環経済を目指す政策目標に組み込まれる。したがって、中小企業及び社会の作用者を含む産業バリューチェーンに沿った規格の使いやすさと有効性や有用性を確保することが最も重要である。

EU は、特に戦略的利益のある将来の技術分野に関して、他の志を同じくする国際的パートナーとの協力を活用して先駆者となり、国際規格の設定を主導する可能性をもっている。そのため、委員会は欧州の標準化システムをより機能的かつ機敏にし、EU の産業界の競争力を高め、EU の公益に貢献し、持続可能性を促進し、民主的価値を維持及び強化する規格を実現することに取り組んでいる。

<sup>15</sup> <https://academy.europa.eu/>

標準化プロセスにおける透明性は、標準化開発プロセスのボトルネックを取り除き、欧州の標準化システムをより効率的にすることに貢献する。透明性によって、公的及び民間の作用者は、現在のギャップ及び将来の規格のニーズをより良く把握できるようにもなる。

組織間のパートナー、欧州の標準化組織、市民社会、産業界及び学界を含む、全ての関連する作用者の関与及び恒常的な貢献、並びにチェック&バランスの有効性は、欧州の標準化システムの成功にとって重要である。

この戦略により、委員会は、規格の作成におけるグローバルなフロントランナーとしての EU の役割を支え、EU の価値を支援し、産業界に競争力を与える。

**委員会は次のことを行う。**

- 欧州標準化システムの透明性をより高めるために、計画されている現行及び完了済みの標準化活動に関する年次ダッシュボード(指標等の整理表)を、欧州標準化に関する年次欧州連合作業プログラム及び ICT 標準化展開プランと共に公表する。